

プレスリリース

片岡一則センター長、米国以外で初の受賞 Biomaterials Global Impact Award

- 2/14 国際的学術誌 *Biomaterials* は、2023 年 Biomaterials Global Impact Award を iCONM の片岡一則センター長に授与すると発表。
- 同賞は、生体素材、生体デバイス、生物製剤、ナノ医療など、近年注目されるバイオマテリアルの領域で世界的に影響力のある研究者が受賞対象。
- 過去 2 回の受賞者はいずれも米国の研究者であり、片岡センター長は初の米国以外での受賞者となった。
- 第 1 回目の受賞者となる Robert Langer 教授（マサチューセッツ工科大学）、第 2 回目の Nicholas Peppas 教授（テキサス大学）ともに世界を代表するバイオマテリアル研究者であり、画期的な製剤技術およびデバイスの創出で社会に大きく貢献している。
- 授賞式は、4/21 米国・サンディエゴで開催される米国バイオマテリアル学会年会にて執り行われる。

報道関係者 各位

平素は大変お世話になりましてありがとうございます。

この度、ナノ医療イノベーションセンター（通称：iCONM、所在地：川崎市川崎区殿町）の片岡一則センター長が、バイオマテリアル領域で世界的に権威のある Biomaterials Global Impact Award を受賞することが発表されましたのでご報告申し上げます。

同賞は、国際的学術誌 *Biomaterials* が選考するもので、生体素材、生体デバイス、生物製剤、ナノ医療といった近年注目されるバイオマテリアルの領域で世界的に影響力があると認定された研究者に授与されるものです。過去 2 回の受賞者はいずれも米国の研究者であり、片岡センター長は初の米国以外の研究者としての受賞となります。授賞式は、米国バイオマテリアル学会 2023 年度年会（SFB2023@米国サンディエゴ）にて 4 月 21 日に執り行われます。

<参考：過去の受賞者>

Robert Langer 博士（米国 マサチューセッツ工科大学 教授） 2021 年受賞

年間 1,000 万ドルの研究費と 100 名を超える研究者を抱え、世界一とも言われるバイオマテリアル研究施設を持つ。数々のベンチャーを創出し、アカデミアの研究成果を確実に社会実装することで社会に多大な貢献をしている。

Nicholas Peppas 博士（米国 テキサス大学 教授） 2022 年受賞

ナノスケール、高分子プロセス、薬物・タンパク送達に関する物理学・数学理論を提唱し、同領域における精緻な基盤を確立したうえで多数の生物医学製品およびデバイスを世の中に提供している。

<片岡一則 iCONM センター長 に関して>



川崎市産業振興財団 副理事長、ナノ医療イノベーションセンター センター長、東京大学名誉教授。

過去 40 年間にわたり、バイオマテリアルの分野、特にドラッグデリバリー/ドラッグターゲット、非ウイルス性遺伝子導入、ナノ医療の分野で数多くの実績をあげ、これまでに 600 報超の査読付き論文を発表し、96,000 回以上引用されています（h-index は 161）。トップ 1% 高被引用論文著者として 2017 年から現在まで 6 年連続、計 7 回認定されています。特許の数も 600 件を超え、ベンチャー企業 5 社の経営に関与しています。クレムソン賞（生体材料学会）、創設者賞（Controlled Release Society）、フンボルト研究賞（2012）、江崎玲於奈賞（2012）、高松宮癌研究基金賞（2017）など多数の受賞歴があり、日本工学アカデミー（2011）、米国工学アカデミー（2017）、米国発明家アカ

デミー（2017）にも選出されています。現在、iCONM では片岡センター長の下、高分子ナノミセルを用いた革新的なナノ DDS 研究が進められており、ここ数年で 9 社のスタートアップ企業が設立されました。

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の 100% 出捐により昭和 63 年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と 実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

2023 年 3 月 2 日